

高校生の公共

指導資料・関連教材 カタログ

文部科学省検定済教科書
46 帝国
公共046-901
高等学校公民科用

高校生の 公共



帝国書院

- 指導資料 Web サポートコンテンツ付 p.2
- 教科書準拠ノート p.12
- デジタル教材 p.14

高校生の公共

指導資料Webサポートコンテンツ付

- 内容 ① 指導用教科書 AB判 / 248 ページ
 ② 使い方・Web サポート等案内冊子
 ③ 指導書 Web サポート

1 指導用教科書

- 教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じ AB 判サイズの指導資料です。

↓教科書 p.32-33 に対応したページの例

The image shows a preview of the guidebook pages, which are designed to be used alongside the textbook. It features several sections:

- 1 他者と共に生きる倫理**: A section discussing ethics and social relationships, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' (Ethics of Living with Others) and '読者の流れ' (Reader's Flow).
- 2 他者と共に生きる倫理**: A detailed section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 3 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 4 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 5 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 6 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 7 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 8 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 9 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 10 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 11 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 12 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 13 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 14 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 15 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 16 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 17 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.
- 18 他者と共に生きる倫理**: A section on ethics, including a sub-section on '他者と共に生きる倫理' and '読者の流れ'.

2 使い方・Web サポート等案内冊子

- 指導用教科書の使い方と、Web サポートのコンテンツを紹介する冊子です。
- 指導用教科書に何が書かれているか、どのように使えばよいかを紹介しています。
- 指導書 Web サポートに収録しているコンテンツの概要と、帝国書院ウェブサイトから Web サポートを利用するためのアクセスキーを掲載しています。

3 指導書 Web サポート

- 授業スライドや各種ワークシートなど、授業の準備や評価で役立つデジタルコンテンツをご利用いただけるサービスです。
- 帝国書院ウェブサイトから会員ページにログイン後、「使い方・Web サポート等案内冊子」に記載されたアクセスキーをご入力いただくことで、コンテンツ一覧ページにアクセスできます。
- ご利用いただけるデジタルコンテンツは、下記の通りです。

1. 授業スライド (.pptx/Google スライド).....本冊子 p. 6
2. 授業プリント (.docx).....本冊子 p. 7
3. 評価問題例 (テスト例) (.docx).....本冊子 p. 8
4. 特設ワークシート (.docx).....本冊子 p. 9
5. 見通し・振り返りシート (.docx/Google スプレッドシート).....本冊子 p.10
6. 教科書本文 (.txt).....本冊子 p.10
7. 教科書紙面ビューア.....本冊子 p.11
8. 教科書掲載図版〈カラー/モノクロ〉(.jpg).....本冊子 p.11
9. 学習課題・確認・説明の解答例 (.txt)
10. 年間指導計画書・評価規準例 (.xlsx)
11. 映像資料
12. 図版アニメーション
13. 教科書 QR コンテンツ〈一問一答〉(.xlsx)
14. 教科書 QR コンテンツ〈用語解説〉(.xlsx)
15. 白地図集 (.jpg)
16. 参考文献紹介 (.docx)
17. 著者からのメッセージ (.pdf)
18. 教科書 QR コンテンツへのリンク

The image shows a preview of the special worksheet (特設ワークシート) titled "生命に優先順位をつけることは許されるか?" (Is it permissible to set priorities for life?). It includes a table for student information and a section for a case study (トリアージ・タッグ) with a diagram showing a person being tagged with numbers 1-4. The diagram shows a person with a red tag (1), a yellow tag (2), a green tag (3), and a black tag (4). The text explains that the tags represent priority levels, with 1 being the highest and 4 being the lowest. The person with the red tag is the most critical, followed by yellow, green, and black.

↑④特設ワークシート (.docx) の例

The image shows a preview of the "見通し・振り返りシート" (見通し・振り返りシート) for the topic "生命に優先順位をつけることは許されるか?". It includes a table for student information and a section for a case study (トリアージ・タッグ) with a diagram showing a person being tagged with numbers 1-4. The diagram shows a person with a red tag (1), a yellow tag (2), a green tag (3), and a black tag (4). The text explains that the tags represent priority levels, with 1 being the highest and 4 being the lowest. The person with the red tag is the most critical, followed by yellow, green, and black.

↑⑤見通し・振り返りシート (.docx) の例

The image shows a preview of the "無知のベール" (無知のベール) section, which discusses the principles of justice. It includes a diagram showing a person behind a veil, and a list of principles:

- 第一原理**: 各人は基本的な自由に対して平等である (平等な自由)。
- 第二原理**: 全員に均等な機会が与えられた公正な競争のうえで (公正な機会均等)。
- 第三原理**: 最も恵まれない人々の利益になる場合のみ、不平等は認められる (格差の是正)。

↑⑥教科書掲載図版〈カラー〉(.jpg) の例

1 指導用教科書

- 教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じAB判サイズの指導資料です。
- 教科書掲載内容の解説だけでなく、授業の流れや要点整理、用語解説なども掲載。この1冊で授業の要点を押さえられます。

↓教科書 p.32-33 に対応したページの例

第1部 2章

公共的な空間における人間としてのあり方・生き方

4 他者と共に生きる倫理

解説 理性の光と影

啓蒙思想が重んじる理性は平等の理念を生み出し、フランス革命や近代立憲主義の基盤になった。その一方で、理性の普遍性を信じて疑わず、異なる価値観をもつ他者に対する暴力や差別といった、想像力を欠く側面も見受けられた。近代西洋の理性は、人間理解の一つのアプローチにすぎないのだが、それを金科玉条のように考えることで、ある人々を「奴隷」や「未開民族」と名付け、理性において劣るものとして利用された。このような行為こそ、理性的でないことに想像力が及ばなかったのである。

解説 道具的理性

マックス＝ホルクハイマーとテオドル＝アドルノは、亡命先のカリフォルニアにおいて『啓蒙の弁証法』を書き、西洋的な理性が他者を支配する手段としての道具と化し、文明化を進めるはずの啓蒙が弁証法的にその反対物に転化する中で、ナチズムという新しい野蛮をもたらしたと述べた。『啓蒙が神話へと逆行していく原因は、ことさら逆行することを目的として考え出された、国家主義的、異教的等々の近代的神話のもとに求められるべきではなく、むしろ真理に直面する恐怖に立ちすくんでいる啓蒙そのものうちに求められなければならない』（『啓蒙の弁証法』序文）。それは、理性と啓蒙への徹底した批判であるが、徹底した批判を行う限りで、理性と啓蒙を徹底的な崩壊から救うものでもあった。

4 他者と共に生きる倫理

1 導入 成功するために環境はどれくらい重要か？

今日の社会で重視されること多い学歴や職業、所得といった社会的地位は、果たして本人の努力のみによって築かれたものだろうか。例えば、進学で必死に勉強したが成果が出ない漫画家Aと、幼少期からお金をかけて絵画やピアノの知識や技術身につけて成功した漫画家Bがいたとした場合、AはBに比べて努力が少なかったといえるだろうか。

「社会的な成功には環境がより強く影響する」という意見について

- ・よい環境でも本人の努力がなければ成果は得られないため、努力のほうが強く影響する。
- ・家庭環境などは、教育や経済の面で恵まれるため、環境要因のほうが強く影響する。
- ・受験などは得点で合格を決める公正な競争であるため、努力が成功に直結する。合格は恵まれる者に多く与えられる。

社会的な成功を収めることにおいて、社会や家庭環境は、どの程度影響すると考えられるだろうか。

公正な社会とは

今、私たちの生きる社会は、公正だといえるだろうか。「運も実力のうち」ということわざがあるが、自分が取り巻く環境はどこまで公正であるべきだろうか。

人々は公正さを欠いた社会を正しくない状態だと考え、すべての人が平等な関係で結ばれる社会の実現のために格闘してきた。特に17世紀以降、ヨーロッパでは、理性に基づき人を教え導くという啓蒙運動が展開された。この結果、人は生まれながらに平等であるという普遍的な価値観が生まれた。

平等と公正をめぐる現代の議論

20世紀前半には自民族を優れたものとし、自民族を中心とした社会を形成する動きが世界中で盛んになった。

ドイツではユダヤ人や障がいのある人などを排除しようとした過激な全体主義（ナチズム）が誕生し、みずからは異なる者を平等とみなさず、暴力によって彼らの存在を消去しようとした。

ナチズムに追われてアメリカに亡命したホルクハイマーやアドルノは、全体主義の原因が、感情や人間性を軽視する行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を強調した。同じく亡命したアーレントは、命に従うままナチズムを支えた無責任な官僚であるアイヒマンの裁判を傍聴し、彼は思考が不足していたと批判した。また、護しもがナチズムの支持者になりうることを警鐘を鳴らし、それを自分と無関係なものとして忘れてしまうことは許されないとしたのである。そしてこの悲劇を繰り返さないために、古代ギリシアにみられた、多様な人々が対話できる公共的な空間が必要だと考えた。

全体主義

一つの政治が大量を動員して政治的権力を握り、国民の自由を制限し、国民の利益を優先にする体制をいう。全体主義では、個人の自由や人権は無視される。

1 1 裁判を受けるアイヒマン(1961年)

アーレントは、ユダヤ人を強制収容所に移送し殺害したアイヒマンの裁判を傍聴し、ナチスの過激な犯罪は命令に従っただけの凡庸な人間によって犯された(悪の陳腐さ)と考えた。

1 1 現代の主要思想家

思想家	アーレント (1906~75)	ハーバマス (1929~)	ロールズ (1921~2002)	セン (1933~)
主要	「全体主義の起源」など	「公共性の概念」など	「正義論」など	「不平等の再帰性」など
思想の特徴	ドイツ出身の哲学者。ナチズムの過激な暴力を受けた経験から、他人任せの社会に警戒している。全体主義に警戒している。人々の自由を尊重し、個人の権利を重視している。そこから内外の自由主義的な思想が展開された。	ドイツの哲学者でフランクフルト学派に属する。「道徳的理性」を提唱する一方で、近代化の過程で生じた「公共性」の喪失を懸念している。コミュニケーションに基づく公共性を重視している。その結果、社会正義の再構築を主張している。その結果、社会正義の再構築を主張している。	アメリカ出身の哲学者。1960年代の公民権運動の経験から、すべての人の自由と権利のために必要な正義の原理を提唱している。正義論を基盤として、社会正義の再構築を主張している。その結果、社会正義の再構築を主張している。	インド出身の経済学者でアリアンゾのノーベル経済学賞を受賞した。インドの発展を促すために、貧困削減や教育の重要性を提唱している。その結果、社会正義の再構築を主張している。

その後、啓蒙や理性の意義を改めて問い直す動きも生まれた。ドイツの哲学者ハーバマスは、ヨーロッパの近代にみられた、新聞というメディアを介したコーヒンハウスでの対話を参考に、他者と理性的に対話をし合うこと(対話的理性)ができる公共的な空間を再構築しようとした。

1960年代になると人権差別を不正義と考える動きが生まれた。特にアメリカでは黒人の差別解消を目指す公民権運動が盛り上がり、他者との共生が達成されるより社会づくりに関する議論が広がった。アメリカの政治哲学者ロールズは、各人がそれぞれの境遇や経済力などの立場に縛られていないために、格差や不平等などの社会の不正義が生じると考えた。そして、自分の置かれた立場を知ることができないように「観知のベール」をかぶせられた人々がどのような社会を望むか、という思考実験を行い、**社会のしくみには公正性と平等性が求められるとする正義の二原理**を提唱した。

他方、インドの経済学者センは、子供と大人、障がいのある人と健常者とは必要とするケアやサポートが違ふと考えた。そして、**現実の暮らしのなかで人々が何を必要として何ができるのかという観念(ケイパビリティ)を提起し、それらを満たし高めることで社会全体が幸福になっていくと唱えた。**

このように、私たちが生きる公共的な空間をよりよくするための考え方は、時代や地域を問わず多くの先人によって議論されてきた。先人たちの物事に対する視点や方法をヒントにしながら今日の社会の課題をとりえ、解決方法を考えていく。

観知のベール

目のかわからない状況からいかに公平な判断をするか。

観知のベール

人は基本的な自由に対して平等である(平等な自由)。

正義の二原理

1. 全員に均等に権利が与えられた公正な社会のルールで社会を組織する。

2. 誰もが生まれながらに持っている権利を尊重し、不平等な状況に陥らない(観知のベール)。

よりよい社会の形成に向けてロールズとセンは重要な考え方を提示し、私たちが何を必要として何ができるのか、それをそれぞれが考える。

発展途上国にどのような支援が適切か、ケイパビリティの観点を踏まえて説明しよう。

解説 対話的理性

ハーバマスは、ホルクハイマーやアドルノによる理性と啓蒙への批判の後で、もう一度理性と啓蒙を立て直そうとした。すなわち、「道具的理性」に対しては「対話的理性」を置き、他者とのコミュニケーションによって構成される市民的な公共領域(公共圏)を再構築しようとした。また、啓蒙としての西洋近代はナチズムという野蛮に墮したというよりも、十分にその理念を実現していない「未完のプロジェクト」だとして、近代に備っていた普遍的な諸価値(とりわけ公正や正義という倫理)を擁護し直した。

解説 ロールズ

ジョン＝ロールズが主張する「公正としての正義」は、社会的な基本財(自由・権利・機会・所得・富・自尊など)の公正な配分を行うことで社会的な協力システムを実現するものである。それを支えるものとして、正義の二原理が提案された。欧米立憲民主主義の伝統に基づいた政治的リベラリズムの立場からではあるが、不遇な人々の利益や幸福を考慮した、公正かつ多面的な社会を目指した。

解説 ケイパビリティ

アマルティア＝センは、ロールズが考えている以上に多様な人々が社会には存在するために、基本財ができるだけ公正に配分されたとしても、その所有だけでは平等は達成されないで、とりわけ基本的なケイパビリティである移動・衣食住・社会生活への参加といった能力はできるだけ平等にするべきだと述べた。センは、特に障がいのある人の基本的なケイパビリティを実質的に平等にするような「社会的正義」の議論を展開した。それは後に、「福祉」をケイパビリティの指標として考える方向にも向かった。また、このケイパビリティは個々人の生に根ざした「人間の安全保障」という概念にも組み込まれ、人が不利益をこうむるリスクを避けながら、「人間の発展」や「人権」を深化させ普遍化させていくための、重要な構成要素となっている。

授業の流れ

- 1 導入** (1)導入の活用
- ▶身近な例(スポーツ選手、起業家など)を挙げ、生徒の意見を引き出す。
- 展開** (2)公正な社会の定義とその必要性を考えさせる
- 発問例** 「運も実力のうち」という考え方をどう思うか。
- ▶実際の社会問題(体験格差など)と関連づける。
- (3)全体主義の危険性と対話の重要性を理解
- 発問例** 自分の意見をもたないことのリスクとは。
- ▶アイヒマン裁判の映像や証言を紹介し、具体的なイメージをもたせ、SNSなどの現代の情報空間との共通点を考えさせる。
- (4)公正な社会制度のあり方について議論
- 発問例** 無知のベールをかぶるとどうなるか。
- ▶奨学金制度や福祉政策など身近な制度を例に挙げ、生徒の考えを述べさせた後、資料3を用いて、無知のベールをかぶるとどう考えが変化するかを確認する。
- 発問例** すべての人に同じ支援をすることは本当に公平なのか。
- ▶障がい者支援や福祉政策の例を挙げ、具体的なイメージをもたせる。
- まとめ** (5)本時の振り返り
- ▶環境と努力、公正と平等などの対立概念を振り返り、学習課題に結びつける。

要点整理(板書例)

- 公正な社会とは**
- ・17世紀以降のヨーロッパでは啓蒙運動が展開。
 - ▶人は生まれながらに平等であるという普遍的な価値観が生まれた。
- 平等と公正をめぐる現代の議論**
- ・ドイツでは、過激な全体主義(ナチズム)が誕生。
- ①**ホルクハイマーやアドルノ**
- ・全体主義(ナチズム)の原因が行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を強調。
- ②**アーレント**
- ・ナチスの凶悪な犯罪は命令に従っただけの凡庸な人間によって犯された(悪の陳腐さ)と考えた。
- ③**ハーバマス**
- ・他者と理性的に対話をし合うこと(対話的理性)ができる公共的な空間を再構築しようとした。
- ④**ロールズ**
- ・無知のベールをかぶせられた人々がどのような社会を望むかという思考実験を行い、正義の二原理を提唱。
- ⑤**セン**
- ・現実の暮らしのなかで人々が何を必要として何ができるのかという観念(ケイパビリティ)を提起。
- 課題と向き合うために**
- ・先人の視点や方法をヒントに今日の課題を考える。

読み解き

解答例 社会的な成功には努力だけでなく、教育や経済的環境が大きく影響する。公正な競争を実現するには、機会の平等を保障する必要がある。

学習課題

- 解答例(B評価)**
- 社会の格差を是正するには、すべての人が適切な機会や支援を受けられるしくみが必要である。例えば、障がいのある人や経済的に厳しい環境にある人が、自分の能力を發揮できるような教育や福祉の制度を整えることが大切だ。また、多様な立場の人々が意見を交わし、互いの状況を理解することで、公正な社会のあり方を考え続けることが求められる。
- 〈考えるポイント〉**
- ・社会の格差を生む要因にはどのようなものがあるか。
 - ・すべての人が能力を發揮できる社会にするには何が重要か。
 - ・互いの立場を理解するためにどんな工夫ができるか。
- 〈評価のポイント〉**
- ・社会の格差の原因を理解し、それを是正するためのしくみを考えられているか。
 - ・多様な立場の人々による対話の重要性を意識し、共生のための工夫を考えられているか。

確認

解答例 縮刷版の赤マーカー部分を参照。

説明

- 解答例(B評価)**
- 発展途上国への支援では、人々が自身の可能性を広げ、自立した生活を送れるようにすることが重要である。そのために、教育機会の提供や医療体制の整備を進め、誰もが学び、健康を維持できる環境を整えることが求められる。また、地域ごとに異なる生活の基盤を強化することで、持続的な発展を促すことができる。
- 〈A評価の視点〉**
- ・ケイパビリティの概念の観点から支援の目的を明確にしているか。
 - ・具体的な支援の種類に触れ、それぞれが人々の能力を高める点を説明しているか。
 - ・発展途上国の状況に応じた柔軟な支援(一律ではなく、文化や地域性を考慮した支援)について言及しているか。
- 〈C評価への助言〉**
- ・「どのような支援が人々の選択肢を増やすか」などの視点が不足していないか。単なる善意ではなく、ケイパビリティの観点から議論しよう。
 - ・具体的な支援策の説明が不足していないか。例えば「教育が大事」と述べるだけでなく、どのような教育機会が提供される必要があるのかを掘り下げよう。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ① 授業スライド

- 教科書 1 見開きにつき 10~20 枚のスライドを、PowerPoint データと Google スライドデータで収録しています。
- オリジナルの授業スライドを作る際にも、ご活用いただけます。

↓教科書 p.32-33 に対応した授業スライドの例 (一部分を抜粋)

※クリックするとフセンがはがれます

3 指導書 Web サポートコンテンツ ② 授業プリント

- 授業スライドに対応したプリントの生徒用と教師用 (解答入り) を Word データで収録しています。
- また、振り返りの「自己評価欄」も設けています。

↓教科書 p.32-33 に対応した授業プリント (教師用解答) の例

年 組 番/名前

第 1 部 公共の扉 2 章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方	教科書	年 月 日
4 他者と共に生きる倫理	p.32~33	

□学習課題

Q: 私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

(1) 社会の格差を生む要因にはどのようなものがあるか。
 (2) すべての人が能力を発揮できる社会にするには何が必要か。
 (3) 互いの立場を理解するためにどんな工夫ができるか。

●公平な社会とは

- ・ 人類は、すべての人々が平等な関係で結ばれる社会の実現のために格闘してきた。
- ・ 17 世紀以降のヨーロッパでは、理性に基づき人を教導しようとする① **啓蒙運動** が展開。
 ▶人は生まれながらに② **平等** であるという普遍的な価値観が生まれた。

●平等と公正をめぐる現代の議論

- ・ 20 世紀前半に自民族を優れたものとし、自民族を中心とした社会を形成する動きが世界中で強まる。
- ・ ドイツでは、過激な全体主義 (③ **ナチズム**) が誕生。
 ▶みずからとは異なる者を平等の対象とみなさず、暴力によって存在を消去しようとした。
- (1) ④ **ホルクハイマー** や⑤ **アドルノ** (ドイツの哲学者。アメリカに亡命)
 ・ 全体主義 (ナチズム) の原因が行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を強調。
 ▶ 特定の利益や目的のために使われる理性を「⑥ **道具的理性**」として強く批判。
- (2) ⑦ **アレント** (ドイツの哲学者。アメリカに亡命)
 ・ ナチスの凶悪な犯罪は命令に従っただけの凡庸な人間によって担われた (⑧ **悪の陳腐さ**) と考えた。
 ▶ 多様な人々が対話できる⑨ **公共的な空間** が必要だと考えた。
- (3) ⑩ **ハーバマス** (ドイツの哲学者)
 ・ 他者と理性的に対話を交わし合うこと (⑪ **対話的理性**) ができる公共的な空間を再構築しようとした。
- (4) ⑫ **ロールズ** (アメリカの政治哲学者)
 ・ 各人がそれぞれの境遇や経済力などの立場に縛られているために、社会の不正義が生じると考えた。
 ▶ 自分の置かれた立場を知ることができないように⑬ **無知のヴェール** をかぶせられた

●説明 (120 字程度でまとめよう)

Q: 発展途上国にはどのような支援が適切か、ケイバビリティの視点を踏まえて説明しよう。

(例) 発展途上国への支援では、人々が自身の可能性を広げ、自立した生活を送れるようにすることが重要である。そのために、教育機会の提供や医療体制の整備を進め、誰もが学び、健康を維持できる環境を整えることが求められる。また、地域ごとに異なる生活の基盤を強化することで、持続的な発展を促すことができる。

■振り返って自己採点してみよう (A:よくできた B:できた C:あまりできなかった)

■分かったこと、感じたことを書いてみよう

3 指導書 Web サポートコンテンツ ③ 評価問題例 (テスト例)

- テスト例とその解答を Word データで収録しています。
- 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価観点も示しています。

↓教科書第1部第2章に対応した評価問題例

第1部 公共の扉
第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方

1 次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

。古代ギリシャの哲学者である **i** は、「不知の自覚（無知の知）」をみずからの思想の基礎にしたことで知られる。「不知の自覚」とは、**A** である。確かに、私たちは、ともすると物事に対する表面的な理解で、何かを「分かった」ような気になってしまいがちである。しかし、その思い過ぎがかえって私たちを、**真の知**から遠ざけているのであろう。

現代において、私たちは多様な他者と関わって生きている。ひょっとすると、そうした他者を理解することは、他者について「何も知らない」「何も分かっていない」ということを認識するところから始まるのかもしれない。「何も知らない」からこそ、私たちは素直に他者と向き合い、他者との接触を通じて他者を「学ぼう」とする。そこには、抽象的な思考ではなく、『論語』の中に見いだされるように、他者との日常的な交わりの中に人の道を見いだそうとした古代中国の **ii** の態度とも相通するものがある。よく学ぶとは、すなわち、よく生きることなのである。どちらが手段でも、どちらが目的でもないだろう。

問1 文章中の空欄 **i**・**ii** に入る人名を、それぞれ答えよ。

問2 下線部 **a** に関連して、古代ギリシャのアリストテレスは、人生の最高の目的、最高善を何であると考えたか。漢字2字で答えよ。

問3 文章中の空欄 **A** に入る記述として適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア. 最高の知者として、無知である民衆に、論争に勝ち抜くための巧みな弁論術を教え伝えることができるということ

イ. 最高の知者として、無知である民衆に、問答法を通じて人生における深遠な知恵を授けることができるということ

ウ. 善美の事柄に対して自分は何も知らないが、善美の事柄以外の真理を知っている点で知恵があるということ

エ. 善美の事柄に対して自分は何も知らないが、知らないということを知っている点で知恵があるということ

2 次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

人とは何か。簡単に答えの出ない問いである。むしろ、AI（人工知能）や医療技術が発達した今だからこそ、先人たちにヒントをもらうことが必要だろう。古代ギリシャで哲学者たちが活躍したのとはほぼ同時期に、古代中国では、**諸子百家**とよばれる人々が登場した。彼らは人を超えた天との関係からだけでなく、生まれながらのあり方（性）や感情（情）からも、**人とは何かという問い**について議論を重ねた。

問1 下線部 **a** に関連して、次の表の空欄①～⑥に当てはまる語句を、それぞれ答えよ。

	荘子 (前4世紀ごろ)	老子 (生没年不詳)
	道家	
	「荘子」	「老子」
の教え に近い 天とし 感情に す平等 こと。	世界は人為的な対立や 区別がなく、一つです べて美しい価値である という万物斉同の考え を説いた。	作為を取り去った「無 為」を強調した。後に、 ありのままを受け入れ る「 ⑤ 」と解釈され て広まった。

と話し合っている。人とは何かという問
を選び、記号で答えよ。
表れとして、今も大切にされているね。
か」を考えることもできるね。
り墨子の「兼愛」も大切だと思うな。
直的につながっていると考えられていた

みたいで、子どもっぽいと思う人もい
真剣に議論されている。
て、いじめた側を懲らしめるだけが「正
正義」をどう実現するか、一人一人が考

1

アメリカのハーバード大学で、1,000 人もの学生を前に「正義」についての対話を試みたのがマイケル・サンデル教授である。彼は、「金持ちに高い税金を課し、貧しい人に再配分することは公正なことか」など、「正義」が一つに定まらない問いを学生に投げかけ、その様子は日本でも紹介され、反響をよんだ。「正義」を考えることは、自分がよく生きたいという願いを実現するだけでなく、他人のよく生きるとい願いとどう両立するか、つまり、社会において他人と共に生きるために、自分の幸福だけでなく他人の幸福をどう考えるかということでもある。自分の「正義」だけでも、相手の「正義」だけでもない、**。他者と共に生きることの「正義」について考えることが大切であり、現代社会に生きる私たちには、そのような繊細な態度が求められている。**

- 問1** 下線部 **a** に関連して、以下の問いに答えよ。
- ①ベンサムやミルが主張した、**快樂としての幸福が社会全体として増大することがよいという考え方**を何というか。
- ②①の考え方における、「**快樂としての幸福が社会全体として増大すること**」を何というか。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ④ 特設ワークシート

- 生徒用と教師用（評価・解答入り）の2種類をご用意しています。
- 主体的・対話的で深い学びに対応したワークシートです。

↓教科書 p.38-39 に対応したワークシートの例（生徒用）

特設ワークシート(詳細版)
 p.38-39 「公共」の見方・考え方
 生命に優先順位をつけることは許されるか？

年 組 番
名前

ワーク1【p.38 設問①】
 血清を接種する人をどのように決めるべきか、**1**を参考に考えてみよう。

ワーク2【p.38 設問②】
 1つしかない血清を接種する場合、誰に接種するべきか、**2**を参考に考えてみよう。

ワーク3
 p.39の「**実社会における優先順位 ～トリアージの事例～**」を読み、災害時における医療現場では、どのような**判断基準**で優先順位がつけられているかまとめてみよう。周りの人の意見も聞いて深めてみよう。

トリアージ・タグ（Ⅲが緑色、Ⅱが黄色、Ⅰが赤色、0が黒色）
 軽傷であればⅢ、死亡の場合は0となるようにタグを現場で切ることで、識別を行う。

到達に努力を要する (C)	生命に優先順位をつけることは許されるかという思考実験に関して、諸資料を読み取れず、理解できなかった。	生命に優先順位をつけることは許されるかという思考実験に関して、判断できず、みずからの考えを表現できなかった。	一連の活動の一部について、諸資料を用いて取り組み、みずからの考えを表現できたか自己評価を行い、成果や課題を記録できなかった。
---------------	--	--	--

「**主体的に学習に取り組む態度**」の観点
 一連の活動について、諸資料を用いて取り組み、みずからの考えを表現できたか自己評価を行い、成果や課題を記録した。

一連の活動の一部について、諸資料を用いて取り組み、みずからの考えを表現できたか自己評価を行い、成果と課題を記録した。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑤見通し・振り返りシート

- 生徒用と教師用（評価・解答入り）の2種類をご用意しています。教師用には設問の解答とループリックにも使える評価規準例を入れています。また、Word版とGoogleスプレッドシート版の2種類のデータがございます。
- 自己評価のための単元ポートフォリオとして活用できます。

↓教科書第1部2章の例

第1部2章 見通し・振り返りシート

第1部 公共の原

第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方

■第1部2章の問い
私たちが生きる公共的な空間をよりよくするためには、何に注目して選択・判断していけばよいのだろうか。

■第1部2章の見通し - p.9
この章の問いについて、現時点であなたの考えをまとめてみよう。

この章の問いについて、現時点であなたの考えをまとめてみよう。

この学習を通じて感じたこと

【ループリック評価表】をもとに自己評価しよう

(知・徳)	(思・判・表)	(生)
評価:	評価:	評価:

指導者コメント欄

■各見聞きの学習

本時の項目と学習課題	【説明】の問い	【説明】の問いに対するあなたの考え
p.26-27 1. よりよく生きるためのヒント	本文で扱われている実社会の課題から関心のあるものを一つ取り上げ、その理由を説明しよう。	私は、社会の課題とどう向き合えばよいのだろうか。
p.28-29 2. 幸福と正義の考え方	「自分の幸福より社会の幸福を優先すべき」という意見に対して、あなたの考えを説明しよう。	私たちは、よりよく生きるために、幸福と正義をどのように実現していけばよいのだろうか。
p.30-31 3. 動機と結果の考え方	感情が動機となれば、AIによって常に「最大多数の最大幸福」が提示される社会の実現を望むか、あなたの考えを説明しよう。	私たちは、公共的な空間をよりよくしていくために、どのような判断基準で行動すべきだろうか。
p.32-33 4. 他者と共に生きる倫理	発展した社会にはどのような支えが必要か、ケイビリティの視点を踏まえて説明しよう。	私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

【ループリック評価表】

	「知識・技能」の観点	「思考・判断・表現」の観点	「主体的に学習に取り組む態度」の観点
十分に到達できている (A)	行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方について理解し、現代の課題の解決へ向けてこれらの考え方を活用できた。	倫理的価値の判断において、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としてのあり方・生き方についての自覚を身につけた。	よりよい社会の実現を視野に、現代の課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としてのあり方・生き方についての自覚を身につけた。
一部は到達できている (B)	行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方について理解できた。	倫理的価値の判断において、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方について、多面的・多角的に考察し、みずからの考えを表現しようとした。	よりよい社会の実現を視野に、現代の課題を主体的に解決しようとする態度や現代社会に生きる人間としてのあり方・生き方についての自覚を身につけようとした。
到達に努力を要する (C)	行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方についての理解が不十分だった。	倫理的価値の判断において、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方についての活用が不十分であり、一面的な考察や表現しかできなかった。	よりよい社会の実現を視野に、現代の課題を主体的に解決しようとする態度や現代社会に生きる人間としてのあり方・生き方についての自覚を身につけようとした。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑥教科書本文

- プリントやテストの作成に便利な教科書のテキストデータです。

↓教科書 p32-33 の例

導入 成功するために環境はどれくらい重要か？ 思考実験
今日の社会で重視されることの多い学習歴や職業、所得といった社会的地位は、果たして本人の努力のみによって決められたものなのだろうか。例えば、独学で必死に勉強したが成果が出ない漫画家Aと、幼少期からお金をかけて絵画やシナリオの知識や技術を身につけて成功した漫画家Bがいたとした場合、AはBに比べて努力が足りていないのだろうか。

Yes/No
「社会的な成功には環境より努力のほうが強く影響する」という意見について、より環境でも本人の努力がなければ成功は得られないため、努力のほうが強く影響する。受験などは得意な科目で決まる公平な競争であるため、努力が成功に直結する。家庭環境などは、教育や活動の質に直結するなどの、環境要因のほうが強く影響する。試験や選考など、努力するための環境や機会が富める者に多く与えられる。

読み解き
社会的な成功を収めることにおいて、社会や家庭環境は、どの程度影響すると考えられるだろうか。

4 他者と共に生きる倫理
学習課題
私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

公正な社会とは
今、私たちの生きる社会は、公正だといえるだろうか。「運も実力のうち」ということわざがあるが、自分を取り巻く環境はどの程度公正であるべきだろうか。人々は公正な社会を正しくない状態だと考え、誰もが平等な関係で結ばれる社会の実現のために格闘してきた。特に17世紀以降、ヨーロッパでは、理性に基づき人々を教え導くという啓蒙運動が展開された。この結果、人は生まれながらに平等であるという普遍的価値観が生まれた。

20世紀前半には自民権を擁護したのも、自民権を中心とした社会を形成する動きが世界中で強まった。ドイツではユダヤ人や障がいのある人々を絶滅せよとした過激なナチズムが誕生し、みずからとは異なる者や弱者を平等の対象とはみなさず、暴力によって彼らの声を消去しようとした。ナチズムの暴行を露骨に非難したホルハイマーやアドルノは、全体主義の根拠が、感情や人間性を軽視する行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を指摘した。同じく批判したアレントは、命に代わらずナチズムを変えた責任ある官僚であるアイヒマンの裁判を傍聴し、自分と異なる人々の権利を擁護し、それを自分と無関係なものとして忘れ去ってしまうことは許されないとした。そしてこの悲劇を繰り返さないために、古代ギリシアにみられた、多様な人々が対話できる公共的な空間が必要だと考えた。

その「啓蒙や理性の意義を改めて問い直す動きも生まれた。ドイツの哲学者ハーバマスは、ヨーロッパの近代にみられた、他者と理性的に対話を通じ合うこと（対話的理性）ができる公共的な空間を提議しようとした。

1960年代になると人権差別を不正義と考える動きが生まれた。特にアメリカでは黒人の差別解消を目指す公民権運動が盛り上がり、他者と共生が達成されるよりよい社会づくりに関する議論が広がった。アメリカの政治哲学者ロールズは、各人がそれぞれの境遇や経済力などの立場に縛られないために、格差や不平等などの社会の不正義が生じると考えた。そして、自分の置かれた立場を知ることができないように無知のベールをかぶせられた人々がどのような社会を望むか、という思考実験を行い、社会のしくみに公正性と平等性が求められるとすると正義の二原理を提議した。

他方、インドの経済学者センは、子供と大人、障がいのある人と健康者とは必要とするケアやサポートが違うと考えた。そして、現実の暮らしのなかで人々が何を必要として何ができるのかという概念（ケイビリティ）を提議し、それらを満たし高めることで社会が幸福になっていくと考えた。

このように、私たちが生きる公共的な空間をよりよくするための考え方は、時代や地域を問わず多くの先人によって議論されてきた。先人たちの物語に対する視点や方法をヒントにしながら今日の社会の課題をどうえ、解決方法を考えていく

1 論理的に思考し判断する能力がある理性によって、人々を束縛してきた伝統的な慣習や制度を見直す啓蒙思想は、フランス革命など社会制度の変革にも影響を与えた（p.40）。

WORD: 全体主義
一つの政党が大衆を動員して政治権力を握り、自国や自民族のみを美化しつつ、国家の利益を優先にする体制をいう。全体主義では、個人の自由や人権は軽視される。

1 ホルクハイマーやアドルノに代表されるフランクフルト学派は、特定の利益や目的のために使われる理性を「道具的理性」として強く批判した。

2 裁判を受けるアイヒマン（中央）（1961年） アレントは、ユダヤ人を強制収容所に移送し管理したアイヒマンの裁判を傍聴し、ナチスの凶悪な犯罪は命に代わっただけの凡庸な人間によって担われた（悪の平庸さ）と考えた。

3 所属する集団に共通する正義的な価値観を尊重し、個人の善ではなく公共的な価値をもつ共通善を重視するコミュニタリアニズム（共同体主義）も注目されている。代表的な思想家にマイケルサンデル（1953〜）がいる。

3 正義の二原理

確認
よりよい社会の形成に向けロールズとセンは何が重要と考えたか、それぞれ本文から探そう。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑦教科書紙面ビューア

- 教科書全ページの紙面を閲覧できるビューアです。スクリーンなどに投影することで、教科書紙面を大きく提示しながら授業ができます。

↓教科書 p.32-33 の例

4 他者と共に生きる倫理

成功するために環境はどれくらい重要か？

「社会的な成功には環境より努力のほうが強く影響する」という意見について、より環境でも本人の努力がなければ成功は得られないため、努力のほうが強く影響する。受験などは得意な科目で決まる公平な競争であるため、努力が成功に直結する。家庭環境などは、教育や活動の質に直結するなどの、環境要因のほうが強く影響する。試験や選考など、努力するための環境や機会が富める者に多く与えられる。

他者と共に生きる倫理

私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

公正な社会とは

今、私たちの生きる社会は、公正だといえるだろうか。「運も実力のうち」ということわざがあるが、自分を取り巻く環境はどの程度公正であるべきだろうか。人々は公正な社会を正しくない状態だと考え、誰もが平等な関係で結ばれる社会の実現のために格闘してきた。特に17世紀以降、ヨーロッパでは、理性に基づき人々を教え導くという啓蒙運動が展開された。この結果、人は生まれながらに平等であるという普遍的価値観が生まれた。

20世紀前半には自民権を擁護したのも、自民権を中心とした社会を形成する動きが世界中で強まった。ドイツではユダヤ人や障がいのある人々を絶滅せよとした過激なナチズムが誕生し、みずからとは異なる者や弱者を平等の対象とはみなさず、暴力によって彼らの声を消去しようとした。ナチズムの暴行を露骨に非難したホルハイマーやアドルノは、全体主義の根拠が、感情や人間性を軽視する行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を指摘した。同じく批判したアレントは、命に代わらずナチズムを変えた責任ある官僚であるアイヒマンの裁判を傍聴し、自分と異なる人々の権利を擁護し、それを自分と無関係なものとして忘れ去ってしまうことは許されないとした。そしてこの悲劇を繰り返さないために、古代ギリシアにみられた、多様な人々が対話できる公共的な空間が必要だと考えた。

その「啓蒙や理性の意義を改めて問い直す動きも生まれた。ドイツの哲学者ハーバマスは、ヨーロッパの近代にみられた、他者と理性的に対話を通じ合うこと（対話的理性）ができる公共的な空間を提議しようとした。

1960年代になると人権差別を不正義と考える動きが生まれた。特にアメリカでは黒人の差別解消を目指す公民権運動が盛り上がり、他者と共生が達成されるよりよい社会づくりに関する議論が広がった。アメリカの政治哲学者ロールズは、各人がそれぞれの境遇や経済力などの立場に縛られないために、格差や不平等などの社会の不正義が生じると考えた。そして、自分の置かれた立場を知ることができないように無知のベールをかぶせられた人々がどのような社会を望むか、という思考実験を行い、社会のしくみに公正性と平等性が求められるとすると正義の二原理を提議した。

他方、インドの経済学者センは、子供と大人、障がいのある人と健康者とは必要とするケアやサポートが違うと考えた。そして、現実の暮らしのなかで人々が何を必要として何ができるのかという概念（ケイビリティ）を提議し、それらを満たし高めることで社会が幸福になっていくと考えた。

このように、私たちが生きる公共的な空間をよりよくするための考え方は、時代や地域を問わず多くの先人によって議論されてきた。先人たちの物語に対する視点や方法をヒントにしながら今日の社会の課題をどうえ、解決方法を考えていく

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑧教科書掲載図版〈カラー/モノクロ〉

- プリントやテストの作成などに利用できる教科書掲載図版のデータです。
- カラーとモノクロの2種類をご用意しています。

↓教科書 p.33 図③ (上)〈カラー〉、(下)〈モノクロ〉

無知のベール
自分の置かれた状況がわからない

国籍は？
財産は？
健康？

■第一原理
各人は基本的な自由に対して平等である（平等な自由）。

■第二原理
全員に均等な機会が与えられた公正な競争のうえで（公正な機会均等）、
最も恵まれない人々の利益になる場合のみ、不平等は認められる（格差の是正）。

無知のベール
自分の置かれた状況がわからない

国籍は？
財産は？
健康？

■第一原理
各人は基本的な自由に対して平等である（平等な自由）。

■第二原理
全員に均等な機会が与えられた公正な競争のうえで（公正な機会均等）、
最も恵まれない人々の利益になる場合のみ、不平等は認められる（格差の是正）。

↓教科書 p.32 (左)〈カラー〉、(右)〈モノクロ〉

● 高校生の公共ノート

判型 B5判 ページ数 146 ページ

内容 教科書に完全準拠したフルカラーのノートです。「チェック」で基礎の定着を図り、「チャレンジ」で実践形式の問題に挑戦できます。端末活用に適したデジタル版もご用意しています。(→本冊子 p.14-15)

↓教科書 p.32-33 に対応したページの例 (教師用赤刷り版)

第1部2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方

4 他者と共に生きる倫理

教科書：p.32～33

学習課題 私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。

平等と公正についての現代の主要な思想家の考えを理解させる。
公正な社会の実現のためには何かが必要か考えさせる。

導入問題 成功するために環境はどれくらい重要か？

教科書の導入を見て、空欄に適語を記入しよう。

自分の夢や目標に向かって⑦ **努力** できている人は、[⑦]に集中できるような⑧ **環境** を周囲の人がつくってくれていることを忘れてはなりません。同様に、[⑦]しても結果が出ないと悩む人は、[⑦]を難しくする[⑦]に原因があるかもしれないと考えることも大切です。教科書p.32導入の事例は、[⑦]と[⑦]の関係を事例に、私たちにとって公正な社会とは何かを問いかけています。



チェック 空欄に適語を記入しよう。

公正な社会とは

- 人類は、すべての人々が平等な関係で結ばれる社会の実現のために格闘してきた。
- 17世紀以降のヨーロッパでは、理性に基づき人を教導こうとする① **啓蒙運動** が展開。
▶人は生まれながらに② **平等** であるという普遍的な価値観が生まれた。

平等と公正をめぐる現代の議論

- 20世紀前半に自民族を優れたものとし、自民族を中心とした社会を形成する動きが世界中で強まる。
- ドイツでは、過激な全体主義(③ **ナチズム**)が誕生。
▶みずからとは異なる者を平等の対象とみなさず、暴力によって存在を消去しようとした。
(1) ④ **ホルクハイマー** や⑤ **アドルノ** (ドイツの哲学者。アメリカに亡命)
- 全体主義(ナチズム)の原因が行き過ぎた理性にあるとし、啓蒙の欠点を強調。
▶特定の利益や目的のために使われる理性を「⑥ **道具的理性**」として強く批判。
(2) ⑦ **アーレント** (ドイツの哲学者。アメリカに亡命)
- ナチスの凶悪な犯罪は命令に従っただけの凡庸な人間によって担われた(⑧ **悪の陳腐さ**)と考えた。
▶自分と無関係なものとして忘れ去ってしまうことは許されないとした。
▶多様な人々が対話できる⑨ **公共的な空間** が必要だと考えた。
(3) ⑩ **ハーバマス** (ドイツの哲学者)
- 他者と理性的に対話を交わし合うこと(⑪ **対話的理性**)ができる公共的な空間を再構築しようとした。
(4) ⑫ **ロールズ** (アメリカの政治哲学者)
- 各人がそれぞれの境遇や経済力などの立場に縛られているために、社会の不正義が生じると考えた。
▶自分の置かれた立場を知ることができないように⑬ **無知のベール** をかぶせられた人々がどのような社会を望むか、という思考実験を行い、⑭ **正義の二原理** を提唱した。



- ⑮ **平等な自由**
- ⑯ **公正な機会均等**
- ⑰ **最も恵まれない**

正義の二原理

(5) ⑱ **セン** (インドの経済学者)

- 現実の暮らしのなかで人々が何を必要として何ができるのかという概念(⑲ **ケイパビリティ**)を提起。
▶それらを満たし高めることで社会全体が幸福になっていくと唱える。

センは人間の福祉に「効用」や「財」に加え「機能」と「ケイパビリティ」という概念を導入する。機能とは健康である、社会に参加できるなど財の利用によって達成できる状態や活動であり、ケイパビリティとはさまざまな機能を選択できる自由のことである。

課題と向き合うために

- 先人たちの物事に対する視点や方法をヒントに今日の社会の課題をとらえ、解決方法を考える。

チャレンジ 次の問いに答えよう。

問1 次のエピソードはセンが著書『正義のアイデア』で紹介しているものである。

センによると現代の正義論の主要な立場によって、三人の子ども、アン、ボブ、カーラの誰に笛を与えるか、答えが変わるという。

では、ロールズの「正義の二原理」の立場から考えると、三人のうちの誰に笛を与えるべきだろうか。また、功利主義の「最大多数の最大幸福」の立場から考えると、三人のうちの誰に笛を与えるべきだろうか。それぞれ答えよ。

一本の笛をめぐる言い争っている三人の子どもがいる。
アンは楽器を弾くのが得意で、三人の中で唯一笛を吹くことができる。
その腕前は確かだ、彼女の吹く笛の音が一番美しい。ほかの二人もその演奏を聴いて幸せになるだろう。ほかの二人もそれは認めている。 → 「最大多数の最大幸福」を実現できる(功利主義)。
ボブは貧乏で、三人の中で唯一おもちゃを買い与えられていない。
笛を与えられて一番喜ぶのは、きっと彼だろう。 → 最も恵まれない人々の利益になる場合のみ、不平等が許されるとする「正義の二原理」に適合する(ロールズ)。
カーラは手先が器用で、三人の中で唯一笛を作ることができる。
その笛を作ったのも彼女で、実際それには何か月もかかった。 → 笛の所有権はカーラにある(アメリカの哲学者ノージックなどのリバタリアニズムの立場)。
ほかの二人もそれは認めている。

「正義の二原理」の立場 ボブ
「最大多数の最大幸福」の立場 アン

〈ノート欄〉

● デジタル準拠ノート 高校生の公共

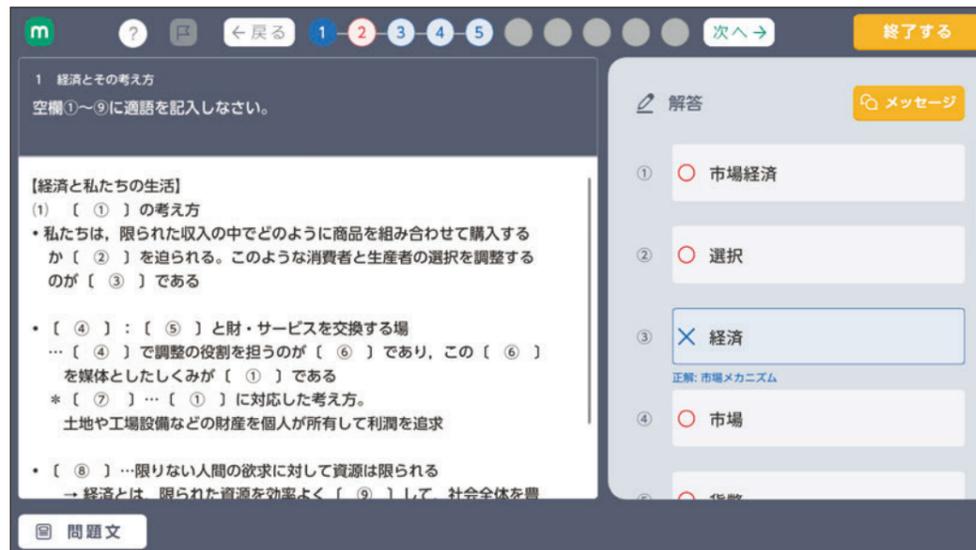
- デジタル準拠ノートは、学習者用端末で自学自習できるドリル教材です。
- 生徒向けには自動採点や復習機能、先生向けには課題管理や評価アシストといった、デジタル版ならではの機能をご利用いただけます。
- 課題設定をする際には、Google Classroom 上でも生徒に通知することができます。

※デジタル準拠ノートの機能は、一部変更になる場合がございます

生徒用機能

デジタルならではの機能

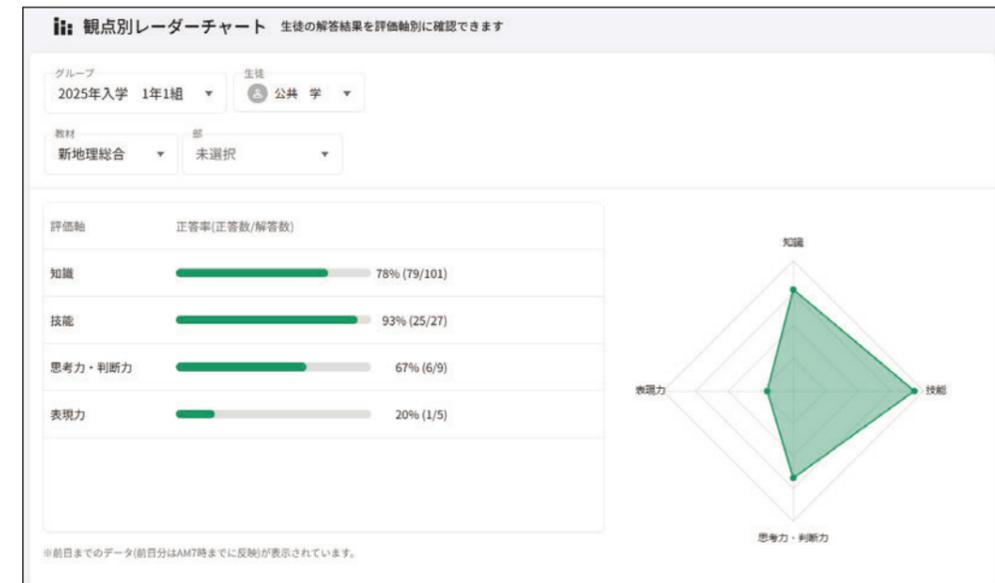
- 解答画面で、手書きまたはキーボード入力を選択できます。
- 解答は自動で正誤判定されるので、先生のご負担軽減にもつながります。
- 繰り返し何度も演習することができるため、基礎知識の確実な定着が図れます。



先生用機能

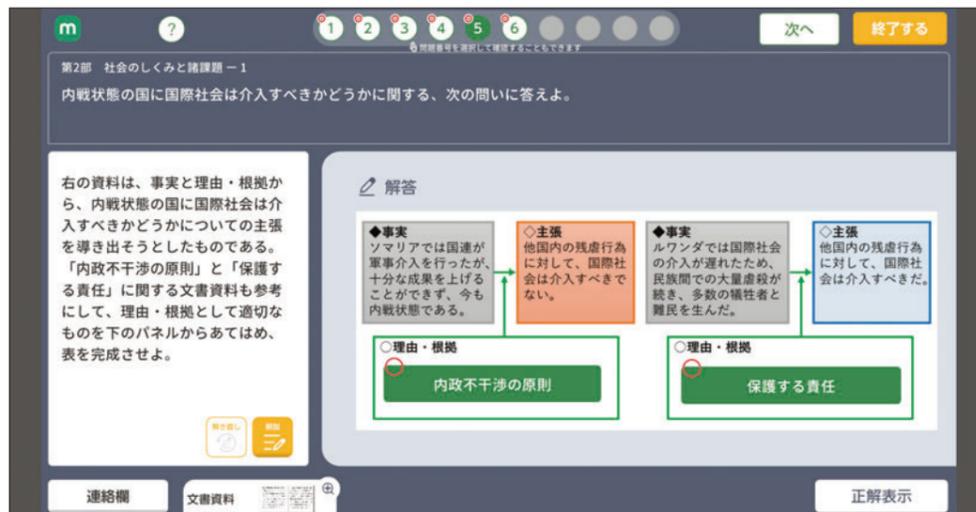
評価に役立つ「観点別レーダーチャート」

- 先生用管理ページには、「観点別レーダーチャート」など、生徒の学習状況を「見える化」できる機能を充実させています。また、学習ログはCSVで出力でき、評価・評定に活用することができます。



オリジナルの「見方・考え方問題」

- 書籍版の準拠ノートには未収録の、資料の読み解きに焦点を当てた「見方・考え方問題」にも取り組むことができます。
- タブレット端末ならではの書き込み機能を用いた、画面をタップしたり多数の資料を参照したりして解答する問題も収録しています。資料への書き込み問題も自動で正誤判定されます。



オリジナルの問題を作成できる「作問ツール」

- 既存の問題だけでなく、先生が独自に問題を作れる「作問ツール」を収録しています。出題形式や評価軸も任意に設定できるほか、「指導書 Web サポート」(別売、→本冊子 p.11) 収録の図版データを取り込んで作問に活用することもできます。



帝国書院ウェブサイト 会員登録方法のご案内

指導書 Web サポートのほかに、ChiReKo (定期刊行冊子) のバックナンバーや、写真・動画、統計など、あらゆる情報を掲載！



帝国書院ウェブサイト ログインページ▶



帝国書院ウェブサイトのトップページ右上の「ログイン」ボタンをクリックします。



「会員登録」をクリックして、登録画面へ。

届いたメールに記載の URL にアクセスして
パスワードや所属先などの必要事項を入力

※メールは迷惑メールに入っている場合がございます

必要事項の入力は、3分ほどで済む簡単な
ものです。



会員登録が完了し、ログイン後は「会員ページ」から、Web サポートなどの各種サービスを見ることが出来ます。

※サイト内の画面は、変更になる場合がございます